

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究

分担研究報告書

コロナ禍におけるこどもの健康・生活に関する全国調査

研究分担者 小枝達也（国立成育医療研究センターこころの診療部）

研究協力者 半谷まゆみ（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

森崎菜穂（国立成育医療研究センター社会医学研究部）

研究要旨

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）流行に伴い、子どもたちの生活も大きな影響を受けている。2020年春、主に臨時休校を伴う緊急事態宣言下の時期に、子どもと保護者を対象とした無記名オンラインアンケート形式の横断調査「コロナ×子どもアンケート」を実施し、子どもたちの生活や心身の健康について調査した。

7～17歳の子ども2,591名と、0～17歳の子をもつ保護者6,116名の計8,707名から回答を得た。回答した子どもの76%が、友人と会えないことに困っていると回答した。72%は、スクリーンタイムが以前よりも増えたと回答した。10のストレス症状のうち少なくとも1つあてはまった子どもは75%で、最多は「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」で39%であった。また、過去1ヶ月に受診や健診などの予定があった者のうち30%が、過去1ヶ月に普段なら医療機関を受診するような症状があった者のうち45%が、受診を控えた・できなかったことがあったと回答した。オンライン診療や電話診療・処方箋発行などを利用して受診したのは7%に過ぎなかった。

コロナ流行初期における、子どもたちの生活や心身の健康への影響が観察された。中長期的な影響の調査とともに、ハイリスク者への支援体制構築や啓発が急務と考えられる。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症（コロナ）の流行は、世界中の子どもたちの生活に未曾有の影響を及ぼしている。

コロナ禍における日本の子どもたちの生活と健康の様子を知ることは、中長期的な影響に備えたり、長引くコロナ禍の対応を決断したり、あるいは今後現れうる同様

の脅威に対応したりするうえで、極めて重要である。

本研究は、子どもと保護者を対象とした横断調査「コロナ×子どもアンケート」により、主に臨時休校を伴う緊急事態宣言下における子どもたちの生活や心身の健康の実態を調査することを目的としている。

B. 研究方法

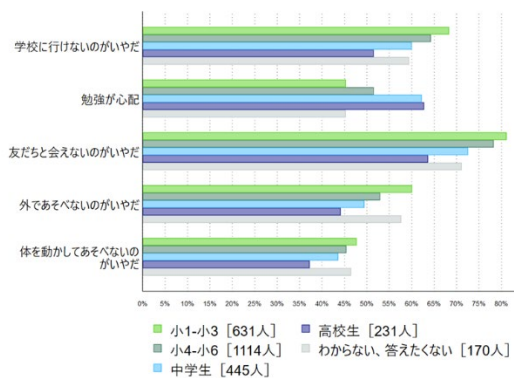
「7～17歳の子ども」および「0～17歳の子をもつ保護者（20歳以上）」を対象とした無記名ウェブ調査。メディアや自治体等を通して全国の対象者を広くリクルートした。説明・同意（こどもの場合は代諾も含む）・回答はすべてオンラインで実施した。

調査項目は、家族構成などの基本属性、困りごと、日常生活に関すること、ストレス症状生活の質、ニーズ、（以下は保護者に）医療受診行動、虐待、家庭内暴力、ペアレンティング行動、保護者のメンタルヘルス（K6尺度）、ニーズなど。調査期間は、2020年4月30日～5月31日。

C. 研究結果

7～17歳の子ども2,591名と、0～17歳の子をもつ保護者6,116名、計8,707名から回答を得た。以下、結果の一部を示す。

(1) 子どもたちが困っていること

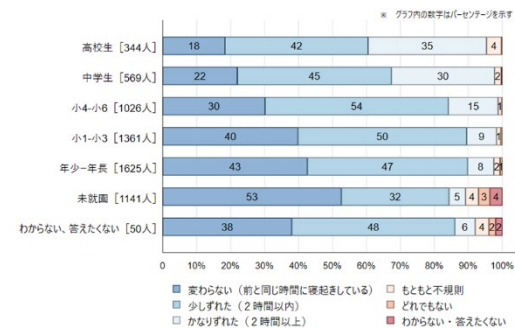
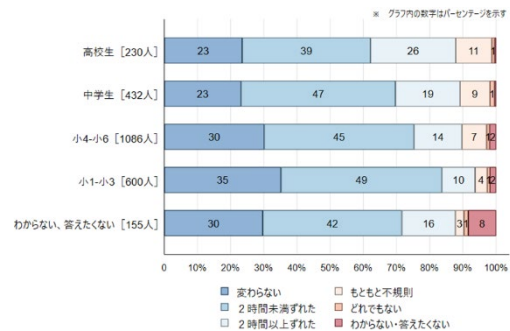


回答したこどもの76%が、友人と会えないことに困っていると回答した。友人と会えないこと、学校に行けないこと、外で遊べないこと、体を動かして遊べないことが困ると回答したこどもの割合はいずれも低学年ほど高かったが、勉強が心配というこどもの割合は逆に高学

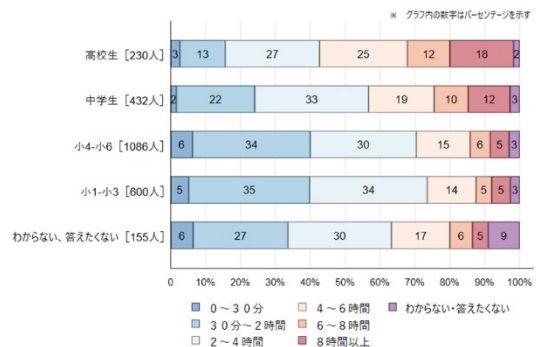
年ほど高かった。

(2) 就寝起床時間

小学生以上では、「ずれた：（2時間未満・以上）」が61%を占めた（こども回答）。中学生、高校生では「2時間以上ずれた」が各々19%、26%だった（こども回答）。保護者の回答では、中高生で「2時間以上ずれた」が3割以上を占めた。下の図は、1つめがこども回答、2つめが保護者回答。



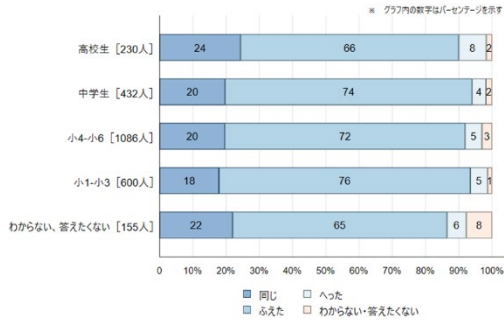
(3) スクリーンタイム



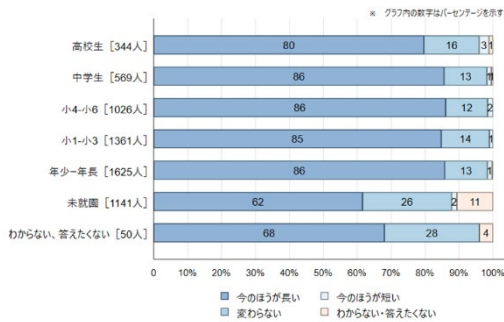
1日あたりの平均スクリーンタイム(勉

強の時間を除く) について、4 時間以上の回答が全体の 31%を占めた (こども回答)。

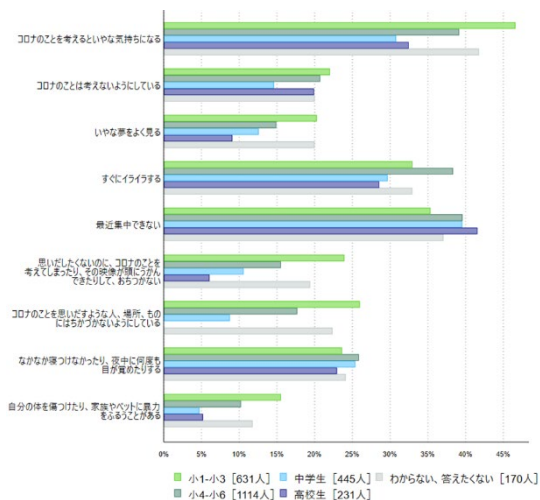
72%のこどもが以前よりスクリーンタイムが増えたと回答した(こども回答)。



未就園児、年少-年長でも各々62%、86%が長くなっていた (保護者回答)。



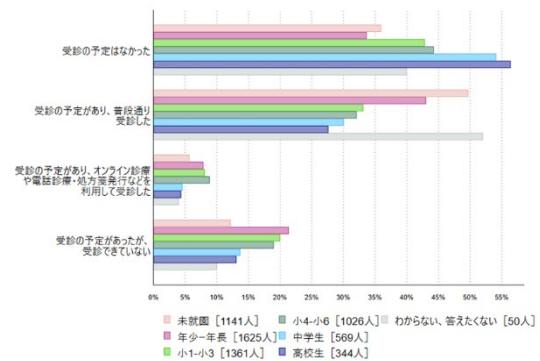
(4) ストレス症状



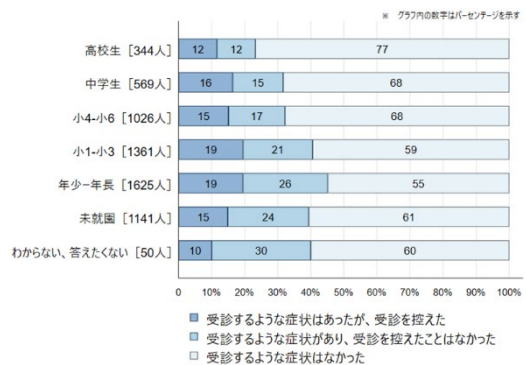
10 のストレス症状のうち少なくとも 1

つあてはまったこどもは 75%に上った。最多は「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」で 39%で、小 1~3 に限定すると 47%が該当した。「最近集中できない」は、小 4~6・中学生の 40%、高校生の 42%が、該当した。「だれかと一緒にいても、自分はひとりぼっちだと感じる」は、小 1~3 の 18%が該当した。「なかなか寝つけなかったり、夜中に何度も目が覚めたりする」は 20%強が該当した。「自分の体を傷つけたり、家族やペットに暴力をふるうことがある」は、小 1~3 の 16%、小 4~6 の 10%が、該当した。

(5) 医療受診への影響



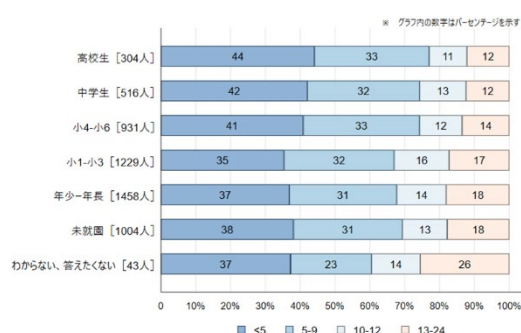
過去 1 か月間に受診の予定があったのは全体の 59%だった。このうち 30%が「受診できていない」と回答した。オンライン診療や電話診療・処方箋発行



などを利用して受診したのは 7%であった。

過去 1 か月間に、普段なら医療機関を受診するような症状があったのは全体の 48%で、このうち 45%が「受診を控えた」と回答した。

(6) 保護者のメンタルヘルス



K6 尺度で 5 点以上（こころに何らかの負担がある状態）が全体の 62%を占めた。

D. 考察

本調査は、コロナ流行初期、主に初回の緊急事態宣言の時期に重なる 2020 年 4～5 月に実施した。

異例の臨時休校が子どもたちの大きなストレスになっていること、生活習慣にも影響を及ぼしていることが明らかになった。また、医療受診控えが発生していることや、メンタルヘルスの悪い保護者が多いことなども分かった。

本調査は、SNS などを通じて回答者を募ったウェブ調査であり、回答者集団が日本の親子を代表していない可能性がある。特に、コロナ禍における子どもたちの生活や健康への影響について少なからず関心のある親子が参加している傾向があると考えられるため、結果の解釈には注意が必要であ

る。

より詳細な分析・調査による中長期的な実態把握とともに、注意喚起や啓発、ハイリスク者への支援体制などを検討する必要がある。

E. 結論

コロナ流行初期における、こどもたちの生活や心身の健康への影響が観察された。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表 4 件投稿中

2. 学会発表

① 第 79 回日本公衆衛生学会総会
O-5-2 コロナ×こども全国初回調査における保護者が求める情報及び必要に関する研究

② 第 124 回日本小児科学会学術集会
1-O-126 COVID-19 流行下におけるこどもと保護者を対象とした生活と健康に関するオンライン調査（コロナ×こどもアンケート）

3. 研究報告書類

下記すべて、国立成育医療研究センターコロナ×こども本部ホームページの【報告書一覧】で公開している。

（https://www.ncchd.go.jp/center/activity/covid19_kodomo/report/index.html#3tab）

① コロナ×こどもアンケート第 1 回調査報告書

② 第 1 回調査報告ダイジェスト版

- ③ 第1回調査報告ダイジェスト版
(英語版)
- ④ こどものきもちもわかってよ
(第1回アンケート自由記載より)
- ⑤ 保護者さまの声(第1～3回アンケートより)
- ⑥ 【保育機関向け】小さなこどもたちの生活とところの様子
- ⑦ 【教育機関向け】こどもたちの生活とところの様子

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定含む)

- 1. 特許取得 なし
- 2. 実用新案登録 なし
- 3. その他 なし